高病原性鳥インフルエンザ警戒本部を設置

農政課特産振興係 TEL72-1111 内線332・333
農政課林務係 TEL72-1111 内線334
鹿児島県南薩家畜保健衛生所 TEL83-2156

『枕崎市高病原性鳥インフルエンザ警戒本部』を1月24日に設置しました。情報の収集に努めるとともに、養鶏農家をはじめとした市民の皆様への情報提供や防疫の強化を図りますので、ご理解とご協力をお願いします。

■防疫徹底のお願い

①人、車両等による侵入の防止に努めましょう。
②野鳥、野生動物(ネズミなど)による侵入防止を徹底しましょう。
③飲み水、飼料による侵入防止に努めましょう。
④飼育舎周辺を整理し、消石灰の散布、防鳥ネットの点検・補修をしましょう。
⑤鶏舎周辺には近寄らないようにしましょう。

高病原性鳥インフルエンザを予防するための消毒液は、一般の薬局で市販されている『逆性石けん液』でも代用できます。

【有効な消毒薬】

- 逆性石けん製剤＝アストップ、ロンテクト、クリアキル、塩化ベンザルコニウム液、パコマ、オスバンなど
- 複合製剤＝アリバンド、オーチストン、ゼクトン、トライキルなど
- アルデヒド製剤＝エクスカット、グルタクリーン、グルターなど
- 塩素系＝クレンテ、スミクロール、アンテックビルコンなど

食品としての鶏肉や鶏卵を食べることによって、人が高病原性鳥インフルエンザに感染した例はありません。万一、食品中にウィルスがあったとしても、十分に加熱(中心部70℃瞬間)して食べれば感染の心配はありません。

■何かおかしいと思ったら、直ちに連絡を！

鳥が続けて死ぬ(1羽舎5羽以上、野鳥10羽以上)場合や、うずくまっているなど異常な状況が確認された場合は、市または鹿児島県南薩家畜保健衛生所に通報し、必要な指示を受けてください。

全国瞬時警報システム運用開始

総務課危機管理対策係 TEL72-1111 内線214

平成23年4月1日(予定)から、全国瞬時警報システム(J-ALERT(ジェイ アラート))による緊急放送をスタートします。

■全国瞬時警報システム(J-ALERT)とは

気象庁から送信される地震・津波警報等の気象関係情報や、内閣官房から送信される有事関係情報を、人工衛星を利用して送信し、市の防災行政無線を自動起動するシステムです。

これにより、市内各所に設置している屋外拡声子局(屋外スピーカー)と一部設置の戸別受信機から、次の情報が瞬時に放送されます。

これらの情報が放送されたときは、テレビやラジオをつけて情報に注意し、身の安全を確保して落ち着いて行動するようにしましょう。

■放送される情報

◎気象庁から送信される気象関係情報

- **緊急地震速報** 震源地の予測震度が5弱以上で、当地域の予測震度が4以上のとき
- **津波警報(大津波)** 3メートル以上が予想されるとき
- **津波警報** 2メートル以上が予想されるとき

◎内閣官房から送信される有事関係情報

- **弾道ミサイル情報** ミサイルが発射され、当地域に着弾する可能性があるとき
- **航空攻撃情報** 当地域に航空攻撃の可能性があるとき
- **ゲリラ・特殊部隊攻撃情報** 当地域にゲリラ攻撃の可能性があるとき
- **大規模テロ情報** 当地域にテロの危険が及ぶ可能性があるとき
- **緊急に住民に伝達することが必要な国民保護に関する情報**

枕崎警察署と『公共事業等から暴力団等を排除する協定書』の調印

■2月1日、市と枕崎警察署において『公共事業等から暴力団等を排除する協定書』の調印式が市役所で行われました。今後、暴力団の関与する事案に警察署と連携して取り組むことで、市民が安心して生活できる地域治安の強化が図られることが期待されます。

第5次枕崎市総合振興計画基本計画(計画後期)(案)に対する答申を市長に提出

■2月2日、市役所で総合開発協議会(大茂健二郎会長)から第5次枕崎市総合振興計画基本計画(計画後期)(案)に関する答申(意見・提言)が市長へ手渡されました。

市では、この貴重な意見・提言を計画策定に役立てていきたいと考えています。

■問合せ 教育委員会学校教育課 TEL72-0170

合同宿泊学習の様子

小・中一貫教育推進で「中1ギャップ」消と学力向上を

本市では、平成17年度に別府小・中学校での小・中連携研究がスタートして以降、小・中一貫教育を推進しています。今号では、昨年度から2年間、研究協力校として活動した桜山中学校区の取り組みを紹介します。

本市が進めている小・中一貫教育とは、同じ敷地内に小学校と中学校を併設するというものではなく、現在の場所で教師や保護者が小・中学校間でつながりを持ちながら、子どもたちの成長を9年間見守り、支えていこうというものです。

小・中一貫教育の必要性がいわれるようになった背景には、中学1年生になって、学校生活に適応することができず不登校になってしまう「中1ギャップ」や「学力低下」などの問題があります。

小・中一貫教育で小学校と中学校の教師が交流することで、教師らは、子どもの学習の実態や学び方の違いを知ることができ「学力向上」にも役立つと考えています。

平成21年度からの2年間、桜山小学校、金山小学校、桜山中学校の3校を市の研究協力校として研究を進めてきました。

研究の成果は毎年、小・中一貫教育推進協議会で報告し、さまざまな意見をいただいています。

3つの視点から研究した桜山中学校区

桜山中学校区3校では「まなび」、「こころ」、「からだ」の3つの視点から研究しました。

【まなび】

- 3校で基本的な学習の進め方や家庭学習の仕方について話し合い、同じように取り組める部分を決めました。
- 学力検査の小・中合同分析により重点的に指導する部分を決めました。

【こころ】

- 小5と中1の子どもたちが合同宿泊学習で交流しました。
- 小6は中学校で1日体験入学を行いました。
- 小・中合同であいさつ運動をしたり、中学生が小学生に読み聞かせをしてあげたりしました。

【からだ】

- 共通の生活リズム調査や、体力テスト分析をして、子どもたちの健康を見守りました。

このほか、小学校と中学校の教師が、お互いの授業に参加し、練習問題の回答をチェックする「ニコ丸先生」や、中学校の教師が小学校の授業に参加してアドバイスをする「ワンポイント先生」、桜山小学校と金山小学校の合同学習による小・小連携の取り組みも行っています。

interview

桜山小学校
佐藤 伸一郎 校長

交流によって生まれる相乗効果

■小・中一貫教育研究協力校として2年間、さまざまな交流を実施してきた中で、中学生には「小学生の手本であり、しっかりしよう」という態度が見られるようになりました。一方、小学生は、そんな中学生の立派な姿を見ることで「先輩たちのようになりたい」と思うようになり、さまざまな活動に意欲的に取り組むようになりました。このように、小・中一貫教育を進めることで、相乗効果が生まれてきています。

枕崎市小・中一貫教育推進協議会から

枕崎市小・中一貫教育推進協議会が1月28日、市民会館で行われ、委員からたくさんの質問や意見をいただきました。その一部を紹介します。

▲推進協議会の様子

委員 別府中校区での取り組みとの違いは何ですか。

A 別府中校区では、主に中学校の教師が小学校に行っていましたが、桜山中学校区では、小学校の教師も中学校へ行っています。「ニコ丸先生」で気軽に学校へ出向き、お互いに顔なじみになり、親近感が生まれてきているようです。宿泊学習などの体験学習も、小・中双方に学び合いなどの効果が出ています。

委員 学ぶ意欲に関しては効果がありますか。

A 9年間を通して子どもを見ようという意識が強くなり、子どもたちも見守られているという安心感が大きいようです。子どもの夢や目標を知る人が、9年間を通して成長を見守ることが徐々に意欲の向上にもつながっていくと考えています。

委員 研究公開を見に行きました。小学校と中学校の教師が同じ教室で息を合わせて授業をしている姿が、同じ学校の先生のようで素晴らしかったです。